



## ມາຈົກແຄມຂອງ～メコン川のほとりから～ 第8号



サバイディー！現在、青年海外協力隊としてラオスで活動中の本校教諭のコウラです。

### ○●生き物について●○



近年、首都などの大都市には「スーパー」や「コンビニ」も増えてきたラオスですが、ラオス人たちにとって買い物をするために行く場所と言えば「タラート（市場）」です。タラートは朝から晩まで人で賑わい、野菜や肉などの食料品はもちろん、洋服や日用品、信仰に必要なお供え物屋さんや携帯ショップまで、とにかく多種多様な店が集まっています。そんなタラート

で、私たち隊員がはじめに驚くのはやはり「肉売り場」。ハエが群がるのは当たり前、足や頭が目に見える形で塊の肉が置かれ、何キロちょうどいと言つてその場で切つてもらい購入します。パック詰めの肉でも衛生的でもありません。私たちがいつも食べている肉（やもちろん野菜も）は、生き物の命をいただいているんだ、ということに改めて気づかされます。「生き物」が「食用肉」に勝手になるわけではないのです。

ラオスに限りませんが、お祝いの場では牛やヤギを一頭その場で殺し料理することが多いです。殺すとき、生き物たちは当たり前ですが痛みを感じ苦します。私は動物が大好きなので、ラオスにいる今でさえ、どうしてもそれらのことから目を背けたくなってしまいます。ですが同時に、“誰か”が殺した生き物の命をいただいていることに、なかなか目を向ける機会がないまま生きてきた自分自身のことも考えます。ラオスでの生活を通して、日本で過ごしてきた毎日を振り返ることばかりです。



家畜として飼われている生き物たちについても紹介しましょう。牛・ヤギ・豚・鶏などの家畜は、非常食や財産として飼われていることが多いのですが、豚以外の家畜はだいたい“外を自由に歩き回って”います。群れのまま家の敷地を出て、エサになる草を求めて歩き回ります。夕方になると飼い主が迎えに来て連れて帰る、そんな場面も日常の光景です（どうやって居場所を知っているのかは私にもまだ謎！）。



ですからラオスでは、道の真ん中を牛の群れが歩いていてクラクションを鳴らしたり車の方が避けて通ったり、都市部では見られない和やかな風景が見られます。牛の群れが道路を横断するために車が渋滞したり、道路に大きなファンが落ちていたり、都市部では見られない少し田舎っぽいラオス的一面、私はとても好きです。

## ●○ラオスで感じる“ジェンダー”のこと○●

生物学的性差ではなく、社会的・文化的な性差のことを「ジェンダー（gender）」と呼びます。途上国では、先進国に比べジェンダー格差が大きい傾向にあります。例えば、教育格差：男性に比べて女性の識字率が低い、HIV/AIDS：男性よりも女性の方が感染者が多い、などです。私たち隊員はそういった情報を得て任国に赴任しますが、ラオスに限って言えば、私が男女の社会的格差を感じる場面はほとんどありません。活動先のサバナケット教員養成校では、むしろ女性の方が発言力が大きく感じられます。3人いる副学長のうち1人は女性だったり、先生同士の夫婦の場合子どもの送り迎えは交代で行なっていたり、学生の割合も女子が多かったり、「男女平等」という視点では日本よりも自然に根付いているのでは？と感じることが多いです。ただし、やはり細かいところを見ていくと、お客様にお茶を入れてくれたり皆で食べる食事を作ってくれたりするのは女性が多いですし、力仕事をするのはやっぱり男性。政府の党の幹部にも必ず女性が入っていますが、決して多くはない。田舎の方では子どももいるが隣の村にも行ったことがない女性がいたり、学校に通えない女子がいたりする、ということも聞いたことがあります。ただ、それらすべてが批判されるべきものなのか？というと、教育・医療・人権などすぐにでも改善すべき格差もあれば、ラオスの伝統としての女性らしさ・男性らしさから来る守るべき差異というものにも目がいきます。「知ること」そして「問題意識を持つこと」はとても大切なことだと思います。外から見てみると本当の問題には気づかない面もあります。しかし、その国や地域や人々の伝統や生き方を無視して、外から来た人が「これはひどい」「これは問題だ」と決めつけることは危ないことだとも、最近よく思います。

## ●○ラオスのお正月○●

ラオスで正月と言えば、4月中旬にある「ラオス正月（水かけ祭り）」、1月1日の「国際正月」、2月にある「旧正月（ベトナム・中国）」。その他にも、少数民族ごとに暦によってお正月があるため、「モン族のお正月」「カム族のお正月」などラオスでは12~4月頃はずーっとお正月ムードの地域もあったりするのです！

国際正月は1月1日のみ祝日で、学校も会社も12月31日も1月2日も通常営業。さらに日本人にとっては「寒くないお正月」というのは本当に実感が湧きません！年が変わった感じがまったくしないまま、二回もお正月を迎えてしました。昨年は任地で過ごした国際正月、街中では爆竹や花火の音と共にラオ



ス人たちもいつもより夜更かし。今年は首都ビエンチャンで年越しをし、カウントダウンイベントや花火に加え、タートルアンという寺院のお祈りを見てきました。ラオス正月だけでなく、年々、国際正月に対する意識が高くなっているようだという話をよく耳にします。

これって何？と思ったら、ぜひ調べてみてください。次号、3月上旬が最終号です！